

## まちづくりの方針B

私たちは「平和を愛し、平和の文化を育むまち」をめざします

ページ数

- |   |    |
|---|----|
| B1 被爆の実相を伝え続けます.....                    | 11 |
| B2 核兵器廃絶の実現に向け行動するとともに、平和の文化を醸成します..... | 13 |

※白紙ページ

施策 B1

被爆の実相を伝え続けます

被爆継承課

◆2030年度にめざす姿（なにが どうなっている）

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 多くの人々が | 被爆の実相の継承を進めている。 |
|--------|-----------------|

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

○原爆資料館の来館者数が増加傾向にあり、多くの方々に被爆の実相を知っていただく機会となっている。

○対話型授業の平和教育をすべての小・中学校で実践したことにより、こどもたちが平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとする意識の高まりにつなげることができている。

○X Rの技術が発展し、被爆の実相を効果的に伝える新たな手法を取り入れることができる。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

○原爆資料館以外の平和・原爆関連施設（旧城山国民学校校舎・永井隆記念館など）の来館者数が減少傾向にある。

○長崎の平和活動をけん引してきた被爆者がいない時代が刻一刻と近付いており、被爆体験を直接聞ける機会が年々少なくなっている。

取組みの方向性

①平和・原爆関連施設の整備及び被爆資料・被爆遺構の保存・活用

・戦争から遠くなった世代に、被爆の実相を分かりやすく伝えるために、原爆資料館及び旧城山国民学校校舎の展示を時代の変化に応じて更新するとともに、平和・原爆関連施設の回遊性を強化するなど、より深く被爆の実相を知り、学ぶことができる環境づくりを進めます。

・被爆者のいない時代にも、被爆の実相を伝えることができるように被爆資料の収集や保存の強化、被爆遺構の保存・活用を推進します。

②平和教育・学習の充実

・3つの柱（被爆体験の継承、平和の発信、平和の創造）による平和教育を推進し、子どもたちの平和の意識醸成を図ります。

③世代や国境を超えて伝わる取組みの推進

・被爆の体験や思いを受け継ぎ、次の世代に伝えていく平和活動の担い手を増やすことで、被爆者のいない時代にも、被爆の実相を伝えることができる環境づくりを進めます。

・国内外で被爆の実相等を伝える機会を創出し、平和の意識の醸成を図ります。

・XRなどの新たな技術を活用し、広く被爆の実相を伝えるための新たな手法を取り入れることで、継承の取組みを進化させます。

◆成果指標

| 指 標 名         | 基準値    | 目標値     |
|---------------|--------|---------|
| 平和・原爆関連施設入場者数 | 99.6万人 | 109.5万人 |
| 対話型授業の実践の割合   | 100%   | 100%    |
| 被爆継承活動をしている人  | 469人   | 525人    |

## ◆関連するSDG s



## ◆連携して進める主な施策

|    |                    |
|----|--------------------|
| G1 | 新たな時代を生き抜く子どもを育みます |
|----|--------------------|

## ◆施策イメージ画像



【家族・交流証言者交流会】



【県外原爆展】

◆2030年度にめざす姿（なにか どうなっている）

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 多くの人々が | 核兵器のない世界を希求し、平和を考え一歩を踏み出している。 |
|--------|-------------------------------|

◆現状分析と取組みの方向性

- うまくいっていること、強み、チャンス**
- 日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が2024年末にノーベル平和賞を受賞したことにより、核兵器廃絶に向けた被爆者の思いへの関心が高まっている。
  - 平和首長会議の加盟都市数の増加により、平和ネットワークが拡大し、国際社会や国際会議の場における発言力が高まっている。
  - プロスポーツチームや長崎出身のアーティストなどが平和発信の取組みを積極的に行っている。

- うまくいっていないこと、弱み、脅威**
- ウクライナ危機の長期化などにより核兵器使用のリスクが高まっており、緊迫した国際情勢が続く中で、核軍拡競争が加速している。
  - 「平和の文化」の考え方を具体的なイメージとして十分に伝えきれていない。

取組みの方向性

- ①平和メッセージの発信力向上と核兵器廃絶の世論喚起**
- ・被爆地長崎の使命として、様々な機会をとらえて、核兵器のない世界を希求する意思を国内外に粘り強く発信します。
- ②平和な世界の創造に向けたネットワークの構築と人材育成**
- ・国際機関や都市、N G Oなどとのネットワークを拡大するとともに、姉妹都市・市民友好都市との都市間交流や被爆（曝）者医療にかかる人的交流を推進し、関係機関との連携を強化します。
  - ・若い世代を中心に平和をアピールできる人材の育成を行い、被爆者のいない時代にも、被爆地の平和への思いを伝えていくための環境づくりを進めます。
- ③スポーツや芸術などを通じて、身近なところから平和について考え行動する機会の創出**
- ・平和活動の裾野を広げるため、自分の興味のある分野を入口にして、気軽に平和を発信できる環境づくりを進めます。

◆成果指標

| 指 標 名       | 基準値     | 目標値     |
|-------------|---------|---------|
| 平和首長会議加盟都市数 | 8,477都市 | 9,191都市 |

## ◆関連するSDGs



## ◆連携して進める主な施策

A3 国際交流を推進し、互いの文化を理解することで、国際性を豊かにします

F5 原爆被爆者等の援護を充実します

G3 スポーツ・レクリエーション活動を推進します

G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します

## ◆施策イメージ画像



【平和首長会議総会】



【V.ファーレン長崎 平和祈念活動】